

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

三才月洞

0



爵位局送第二六二號

京都西之條中興寺
舊名臣

松井中務

右中務の資性剛毅を多岐に及
ずる所を初王ノ大志ヲ抱キ王法ヲ本
ノ素義ヲ以テ示シテ其ノ尊嚴ノ
事ニ至リテ親臨執務スル所多ク然レ
ニ又久シキ事ハ日十二百不怠ニ是レ漢
妻也ニ覺ル其ノ績ハ別布市大老伯
三宅男ノ如キ事ニ似合セリ又ハ後漢
ノ上ノ首ノ賢任リ因リテ其ノ如キ
者咸ニ其ノ如キ事ニ似合セリ

国立公文書館	
分類	衆4-1827
排架番号	3 A
	43 1827
	⑦ 1792

明治三十一年三月二十日

宮内省大臣

内閣總理大臣



内申

松井中務

右之者儀

王政維新之當時別紙之通り國事に盡力
仕候間此際特別之御詮議ヲ以テ贈位之
恩典ニ預リ度此段連署内申仕候也

明治三十一年十二月十五日

從三位男爵三宮義胤



從二位伯爵大谷光尊



宮内大臣子爵田中光顯殿

京都西六條本願寺舊家臣

松井中務

中務資性剛毅ニシテ武技ヲ嗜ミ夙ニ勤王ノ志
ヲ蓄ヘ平素事ノ苟モ 朝廷ニ関スルモノハ其大
小公私ヲ問ハス自ラ奮テ之ニ當レリ天保年間
時事ニ感スル所アリテ本山ニ建言シテ曰ク
抑モ本宗ハ王法為本ノ宗旨ナレバ僧侶ト虽モ
朝廷有事ノ日ニ當テハ死以テ 鳳闕ヲ護衛セ
ザルベカラズサレバ壯年ノ僧侶ハ平素修學ノ傍ラ
武技ノ講習亦忽セニスベカラズ又在俗ノ家臣ハ別

シテ劍銃弓櫓ノ道ヲ練磨シテ以テ國家緩急ノ
用ニ備フルコト他ノ諸藩士ト差異アルベカラス云々
然ルニ本山ノ執務重役右ノ建言ヲ以テ無用ノ
議トナシ之ヲ却下セリ又嘉永六年米艦浦賀ニ
來リ諸藩攘夷ノ議盛ニ起ルニ當テ中務再ニ
奉公要務数條ヲ本山ニ建議セリ其要ニ曰ク廟
議若シ攘夷ニ決スルコトアランニ於テハ中務本
宗門末ノ同志ヲ糾合シテ身ヲ一方ノ先鋒ニ當リ
一死以テ國家ニ殉セン是中務畢生ノ志願ナリ
此儀豫メ御許容ヲ蒙ランコトヲ乞フ其又曰ク

右ノ場合ニ臨テハ法主ニハ 鳳闕御衛護ノ任ニ
當ラセラレサルベカラサレバ今日ヨリ其準備ナカラ
サルベカラズ就テハ全国各地へ使僧ヲ派遣セラレテ
門末一般ニ向テ勤王ノ大義ヲ諭示シ以テ報國ノ
志氣ヲ奮興セシメンコトヲ務ムベシ其又曰ク蝦
夷ハ吾國北門ノ鎖鑰ナリサレバ箱館ニ本宗寺
院ヲ置テ王法為本ノ教義ヲ以テ彼地ノ人心ヲ
固結センコト本山が國家ニ對スル一大急務ナリ其
又曰ク六條境内ニ演武場ヲ設立シテ家臣及僧
侶子弟ヲシテ武技ヲ練習セシムベシ其云々ト

後本山が箱館ニ別院ヲ設置シ又六條内ニ演武
場ヲ開設セシハ蓋シ此ノ建議ニ基キシモノナリ
中務ハ當時紀州寶福寺南英北畠道龍ノ別名ヲ招致
シテ專ラ青年ノ志氣ヲ奮興セシムル事ヲ務
メタリト云

安政四年兵備ノ愈々急ナルヲ覺リ蝦夷地ヲ
開拓シテ屯田兵ヲ置キ而シテ該地ノ物産ヲ
京都ニ輸入シ其利潤ヲ以テ右ノ賞ニ充ヌト
ヲ畫策ス是ニ於テ中務本山ニ請テ自ラ進テ開
懇御用係トナリ橋本伊右衛門及野村藤二郎

ヲシテ該地ニ出張セシメ

(伊右衛門ハ途中
覆舟ニ過テ溺死セリ)

而シテ六

條ニ產物會所ヲ設ケ

(花屋町西洞院角江屋某ノ
家屋ヲ買入テ之ニ充ツ)

彼地ノ

物産ヲ輸入シ其賣捌ノ利潤幾分ヲ兵備資ニ

充テ他ノ幾分ヲ六條六十四町ノ町民ニ分配シテ以

テ町民ノ壯年ヲシテ兵丁徵發ニ應スベキ義務ヲ

負ハシメ即チ六十四町ヲ五隊ニ組織シ隊毎ニ取

締ヲ置ク桐山勝八字津半兵衛名和市兵衛宇

佐美直ハ等當時其撰ニ當レリ

萬延元年毛利大膳大夫ノ中將ニ昇進セラレ、ヤ

中務本山ノ命ヲ奉テ慶賀使トシテ長州萩ニ出

張シ始メテ該藩士穴戸九郎兵衛周布雅之助乃能
權右衛門坪井九右衛門等ニ交リ其議頗ル相合
シ爾來竊ニ相往来セリ穴戸等ノ京坂ニ來ル必
ス中務ノ宅ヲ訪ヒ密談時ヲ移セリト云フ
又久年山科ノ別院ヲ以テ一時毛利家ノ陣營
ニ充テシコトアリシハ金ク中務穴戸等ノ協議ニ
出テシモノナリ

又久三年五月時勢愈々切迫セシカトモ銃砲等
軍器購求ノ資欠乏セシヲ以テ奈何トモスベキ
ナシ是ニ於テ中務本山ニ申請シ自ラ越前國ニ

出張シテ門末及信徒ノ義捐ヲ勸誘セリ時ニ
福井藩之ヲ覺リ家老柏山城ヲシテ中務ヲ幫
助セシメシニ依リ頗ル好結果ヲ得タリ是ニ於テ
山城來テ中務ニ請テ曰ク國家一朝事アルノ日
ハ貴宗本山ハ必ズ弊藩ニ御同心被下度ト然ル
ニ中務ハ該藩ハ徳川氏ノ譜第ニ係ルヲ以テ竊
ニ疑フ所アリ依テ答テ曰ク我本山ハ自ラ定論アリ
貴藩ノ議ト相合スルコトヲ得ルヤ否ハ今日豫
メ期スベカラズ然レトモ貴領内ノ弊宗ニ屬スル
門末僧侶ハ御勝手ニ御使用アリテ可ナリト云ヘリ

是ヨリ幾ハクモナクシテ福井藩京都守護ノ命ヲ
奉ジテ上京シ其旅館ヲ本山境内ニ置カンコトヲ
乞フ時ニ物議四方ニ起リ曰ク春嶽ハ朝敵ナリ決
シテ彼ニ與ミスベカラズト是ヲ以テ本山將ニ彼ノ
乞ヲ拒斥セントス中務乃チ断シテ曰ク 鳳閣警
護ハ勤王ノ務ニ非スヤ苟モ勤王ノ名アルモノハ
之ヲ拒ムベカラズ且ツ春嶽公ヲ目シテ朝敵ト稱
スルコト未ダ其實證アラズ萬一公ニシテ朝敵
タルノ實證アラシ乎中務不敏ト虽モ誓テ彼ヲ
刺殺セント是ニ於テ彼ノ請ヲ容ルコトニ決セリ

然ルニ右等ノ事ニ就テ疑惑ヲ生スル者アリテ
曰ク中務ハ松平春嶽ト謀ヲ通ジ且ツ頻ニ開港
ノ議ヲ主張ス云々ト是ニ由テ三條實美公舊
官人岡田出羽守<sup>現法主ノ
生母ノ父</sup>ヲ遣シテ中務ノ意ヲ糺
サシメテ曰ク卿ノ志余曾テ之ヲ知ル然ルニ近來
云々ノ流言巷説アリ余ハ之ガ為メニ卿ヲ疑フ
コトアラズト虽モ事國家ニ関ス敢テ糺サバ^ルヲ
得ンヤト中務從容トシテ對テ曰ク是恐クハ中
務ヲ中傷セントスル者ノ所為ナラン中務不敏
ト虽モ敢テ其志ヲ貳ニスル者ニ非ス然ルニ其

説ノ起ル蓋シ亦原因ナキニ非ズト乃チ曩日越
前募財ノ始末ヲ始メトシテ越藩へ旅館貸與
ノ議論ヨリ蝦夷物産會社設立ノ事ニ至ルマ
デ縷々陳述シテ出羽守ヲシテ速ニ其趣ヲ復
命セシム三條公大ニ中務ノ精誠ヲ歎セラレタ
リト云フ然ルニ世人中務ハ朝敵ノ名アル春嶽
ニ通ジ西本願寺ヲ以テ其旅館トナシタル
ハ中務素志反覆ノ所置ナリトノ嫌疑ニ原
因シ文久三年八月十二日夜初更暴漢中務ノ
宅ニ闖入シテ中務ヲ斬殺シ其首ヲ提ケ去

テ三條大橋ノ下ニ梟示ス

